

平成28年度 事務事業評価シート

事務事業名	福祉のまちづくり推進					所管	福祉部	
							福祉課	
事務事業の概要	行政計画	事業NO.	87	計画事業名	福祉のまちづくり推進			
	長期総合計画体系	[基本目標] II-1. 個性を活かしたまちづくりの推進					事業の開始・終了年度	
		[小 柱] (2) 快適で利用しやすいまちづくり					[事業開始]	平成14年度
		[施策] ②だれもが利用しやすいまちづくり					[終了予定]	- 年度
	根拠法令等	その他	[法令等名]	東京都福祉のまちづくり条例				
	事業対象	一般区民、区内の小・中学生						
	事業目的	福祉のまちづくりの普及啓発に努め、「心のバリアフリー」を推進する。						
	事業内容	①区内の小・中学校において、児童・生徒を対象とした高齢者疑似体験及び車椅子体験の実施。 ②「心のバリアフリー」リーフレットの作成。 ③磁気ループの貸し出し。						
委託の有無	一部委託	委託内容	高齢者疑似体験の実施					
補助金の有無	都							
事務事業の実績	種 別	指標の名称	(単位)	目標値 (29年度)	25年度	26年度	27年度	
	活動指標	高齢者疑似体験実施回数	回	11	9	10	11	
		成果指標	高齢者疑似体験参加者数	人	600	585	524	616
	決算額 (単位：千円)				1,396	1,176	1,359	
	事務事業コスト (単位：千円)	人にかかるコスト (人件費など)			1,704	2,125	2,406	
		物にかかるコスト (物件費・維持補修費)			1,396	1,177	1,360	
		その他のコスト (扶助費・補助費など)			0	0	0	
		総経費			3,100	3,302	3,766	
	財源項目 (単位：千円)	受益者負担額 (使用料・手数料・負担金など)			0	0	0	
		その他特定財源 (国や都の支出金・財産収入など)			691	587	678	
一般財源 (区負担額)			2,409	2,715	3,088			
前回評価から改善した事項	事前に各学校に対して実施希望調査を行うことにより、前年度未実施の学校を優先し、実施校をさらに1校増やした。							
評価の視点	評価	評価の理由						
	必要性	3	東京オリンピック・パラリンピックに向けておもてなしの機運が高まる中、子供達が体験学習を通してバリアフリーについて学ぶことは重要である。					
	効率性	3	車いす体験は社会福祉協議会のボランティアの協力を得て実施するなど、効率的な運営に努めている。					
	手段の適切性	3	高齢者疑似体験及び車イス体験は、児童・生徒の貴重な体験の機会となっており、福祉のまちづくりの普及・啓発にとって有効であり適切である。					
	目的達成度	4	体験希望校及び参加者数は増加しており、体験を通して「心のバリアフリー」の普及・啓発は進んでいる。					
[評価の理由] (区民生活への影響を十分考慮すること)					評価結果	今後の方向性	維持	
福祉のまちづくりにおいて、ハード面とともにソフト面の「心のバリアフリー」は欠かせない要素である。関係部署と連携しつつ、本事業では区内小中学校の児童・生徒に対して啓発を続けていく。						拡大 改善 維持 縮小 廃止・終了		